

## 令和元年度 指導法研修会 「器械運動部会」

授業者 : 三郷町立三郷北小学校 赤濱 雄一先生

### 【授業研究Ⅰ】

◇日時・場所 8月20日(火) 14:00～ 三郷北小学校

◇題材・学年 「目指せ! 跳び箱名人!」 6年生 跳び箱

◇協議内容の概要

#### ☆授業者より

##### 授業づくりについて

- ・跳び箱運動全6時間(かかえ込み跳び3時間、台上前転3時間、本時5時間目)
- ・台上前転から伸膝台上前転につながるように展開し、可能であれば首はね跳びを目指したいが、年間計画では5年生で跳び箱をしておらず、跳び箱運動に苦手意識をもっている児童が多い。
- ・タブレットは各学年で30台保有。1学期はリレーと走り高跳びの学習でタブレットを活用した。しかし、撮影に夢中になり、話し合い活動は不十分であった。タブレットは撮影する視点をしばって活用したい。

#### 質疑応答

Q: 知識技能より、学びに向かう力や思考力、判断力、表現力の方が大事なのではないか。どのように学びに向かう力や思考力、判断力、表現力をつけていくのか。

A: ある程度、道すじを決めてどんな学習活動ができるか考えていきたい。

Q: 台上前転と首はね跳びの動きは違う。台上前転をしている児童と首はね跳びをする児童がいると観点が変わってくるので、同時に指導するのは難しいのではないか。

A: 台上前転から大きな台上前転につなげたい。台上前転③では、首はね跳びを発展的な技としてできる児童のみ行おうと考えている。

Q: タブレットを利用する際に、大きなスクリーンや電子黒板はあるのか。

A: 電子黒板は体育館に持って行ける。児童が撮った動画を投影するのは難しいが、教師が良いと思った動きを投影することは可能である。

#### ☆グループ協議より(以下の5点に焦点をしばって、協議した。)

##### ★単元計画・取り扱う技について

- ・指導計画6時間では難しいのではないか。特にかかえ込み跳びを2時間で行うのは難しいと感じる。かかえ込み跳びと首はね跳びを行わず、回転系(台上前転)にしばるか、かかえ込み跳びと台上前転で単元をつらぬいた活動にする。また、時数を8時間くらいに増やしたほうがいいのか。
- ・指導計画を増やした方が良いのでは。そのために1～2時間目の間に感覚づくり、4～5時間目の間に安定した台上前転を入れて8時間くらいでもよい。首はねの動きを身につけるのは難しいので、単元の初めから感覚づくりの中で取り組んでいく。また、首はね跳びにチャレンジさせることも大切だと感じる。

##### ★場の設定・感覚づくりの運動例

- ・場の設定は、苦手な児童についての手立てが大切。跳び箱を苦手としている児童が多いようなので、技能面より達成感を得られる場の設定にしてはどうか。
- ・反る、跳ねる感覚づくりをたくさん経験させる。単元を通して行い、初めはセーフティマットなど安全なものから始めてはどうか。

具体例 「補助をつけて跳ね起き」「ブリッジ」「三点倒立からのブリッジ」「前転ブリッジ」

「サンドイッチ」：アンテナから腰を折りたたみ、つま先を床につける→伸ばすを繰り返す。

「アンテナブリッジ」：アンテナからブリッジをする。

### ★ICT 機器の効果的な使い方

- ・タブレットの活用は運動量が落ちることが多い。撮影するポイントを決めておくことが必要である。
- ・タブレットは見本を見るために活用する。何のために見るのか目的をはっきりさせる。タブレットで撮りたいというよりもタブレットを使って話し合いたいとなるようにできれば。
- ・電子黒板を何台かおいて見本を流しておく。タブレットに見本の動きをブックマークしておくとうちでもすぐに見られる。

### ★ワークシートについて

- ・技のポイントが6項目あるので、ポイントを達成できるようなワークシートにしてもよい。
- ・ワークシートにチェックシールを貼っていき、自分たちでポイントを見つけたりオノマトペを足したりしながら思考できるようにする。

### ★その他

- ・跳び箱運動が嫌いという児童が20人もいるので、子どもたちが楽しいと思えるようオリエンテーションでは恐怖心をなくせるような活動を取り入れてほしい。
- ・異質グループと課題別グループのメリットを上手く使いながら、グルーピングを途中で変更したり前半は話し合う時間、後半は運動する時間と分けたりしてもよいのではないかな。

### ☆指導助言 奈良県教育委員会保健体育課指導主事 岩垣和徳先生より

- ・新学習指導要領解説（体育編）に運動が苦手な児童への配慮の例や運動に意欲的でない児童への配慮の例が示されているように、どの子どもも運動が楽しめるように計画することが大切である。
- ・跳び箱運動を苦手と感じている児童20人が、単元が終わった後に好きになれるようにしていきたい。
- ・器械運動は児童に「できそう」と思わせることが大切で、そのためのアナログンやスモールステップの場を工夫して取り組んでほしい。また、単元が終わった後に、子どもたちがどのような姿になってほしいのかというゴールイメージをもつことも大切である。
- ・新学習指導要領では中学年の発展技が高学年の技になっている。5年生で跳び箱運動をしていないので、4年生の振り返りの時間も必要。技を整理して指導計画をたて、6時間目のゴールを伸膝台上前転とし、首はね跳びは台上前転と切り離して時間を設定してはどうか。
- ・ワークシートは、子どもたちの話し合いを活発にさせるように、技のポイントを示したワークシートにする必要がある。また、これまで部会で使用した学習カードを活用し、器械運動部会として作り上げていくことも考えて欲しい。
- ・タブレットは手立ての1つとして考えること。体育科以外の時間で活用するなど、子どもたちの経験によっても、授業での使い方が変わってくる。ICTは教師の評価の時にも役立つ。

- ・次回の指導法研修会は10月24日（木）、公開授業日は11月21日（木）です。  
詳細は後日、出張依頼文書を配布させていただきます。